

(IV-66) 地域の歴史的文化的遺産としての古道の現状と

保存・活用に関する研究 ～横浜市金沢区を例として～

関東学院大学 学生会員 小林 英治

関東学院大学 正会員 昌子 住江

1. はじめに

横浜市金沢区には、金沢道、六浦道などの古道の痕跡が残っている。現在でも道として使われている部分もあるが、一部には通行不能になっている道もある。古道に沿っては道標等の文化財もあり、これの本格的な調査と保存・活用に関する方針をたて実現することが望まれる。本研究では、現地調査を通して現代に残る古道の意義と活用方法についての検討を行った。

なお金沢区を通る古道のうちここでは、文献・古地図・古碑・道標等によって確認できる近世の主要道を扱うことにした。即ち、中世の道を調べるには資料が不足していることやその資料の信憑性に疑問があるからである。

2. 金沢を通る5つの古道

(金沢道)

東海道保土ヶ谷宿から、能見堂を経て金沢へ至る道を金沢道と呼ぶ。金沢八景は江戸近郊の名勝として人気の高い観光地で、金沢道がそのルートであった。文人墨客はもちろんのこと、多くの江戸庶民にぎわったといわれている。

(六浦道)

中世以来の代表的古道である六浦道は、文字通り鎌倉と六浦津とを結ぶ道であった。元来この道は、鎌倉幕府の軍事的・経済的意図のもとに開かれた幹線道路である。

(浦賀道)

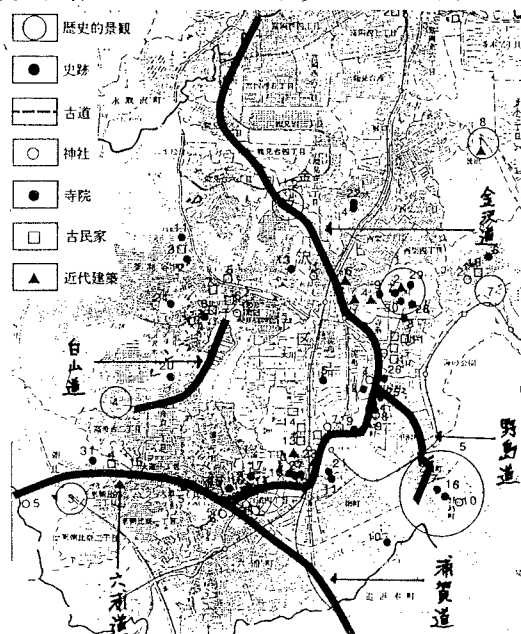
この道は、保土ヶ谷宿で東海道と分かれ金沢道を南下し六浦から三浦半島東岸沿いに横須賀を経て浦賀に通じる。享保5年浦賀奉行の設置とともにこの道の重要度もました。

(白山道)

この道が、いつ開かれいつ頃から白山道と呼ばれるようになったか明らかではないが、少なくとも鎌倉時代中期には開削したと思われる。この道は、鎌倉と釜利谷とを結ぶ道といわれている。

(野島道)

町屋神社から金沢小学校を経て、野島に至る道が野島道である。航路による三浦半島への交通路としてこの道は至便であった。



金沢区を通る5つの古道の分布

(「新金沢八景づくり基本構想・金沢区」の資料をもとに、白山道と野島道は資料「金沢の古道」を参考にして書き加えた)

キーワード；古道・土木遺産・まちづくり

連絡先；横浜市金沢区六浦町4 8 3 4 TEL 045(781)2001 FAX 045(786)7098

3. 金沢区の古道 ～特徴と現況～

資料ならびに現地調査による金沢区の古道の特徴と現況は、以下のとおりである。

(金沢道) 瀬戸神社の正面の道路からスタートした。道は国道16号に沿っていることもあり、車や人の利用が盛んである。さらに、国道16号からはずれて平潟湾沿いの道を進むと、「金沢歴史の道」と標された石碑が立っており、そこには金沢歴史の道の古道地図もあった。そして、付近には神社が目につくことから、昔は重要な道であったと思われる。近年の開発により形が変わっている道ばかりで古道の面影がないところが多いなか、金沢文庫駅付近にある六国峠入り口あたりから山道となっており、昔からの道のような感じがした(写真)。道を進むと階段状に木で造られているところもあるのだが、なかなか急な坂で登りにくい。1キロメートルほど進むと新道となる。

(六浦道) 金沢八景駅前の道を通り、国道16号から県道原宿六浦線に入る。この道もなかなか古道の面影が感じられなかったが、県道をしばらく進み、朝比奈切通し説明板を右手に見て山道にかかったあたりから興味深かった。六国峠に少し似ていて自然が広がっていたが、こちらの道の方

が険しく歩きにくかった。しかし、自然がたくさんあり、歩きながらとても気持ちがよかった。正直、金沢区にもこのよう場所があったのかと思ったし、他の人々にも知ってもらいたいと思った。

(浦賀道) 六浦道上の諏訪の橋付近を南下する道から始まっている。比較的道幅が狭く、くねくねしている道であった。ところどころに商店があり、古街道の印象をもった。

(野島道) 夕照橋を渡り野島に入ったところから始まる。始めの150メートルぐらいの道は、道幅が狭いわりに交通量が多く、人も車も通行が不便だと不満を抱いているのではないかと考えた。

(白山道) 手子神社前の道から始まる。この道は何度か通ったことがあるのだが、いつも工事が行われていたのを記憶していたが、今回も行われていた。奥に進んで行くとやがて白山道は行き止まりとなる。

いくつかの資料をもとに歩いたが、ある一部分が消滅又は調査不能として現在は通れる道でないと示してある資料と現在も通れる道として示してある資料があり、それぞれに違いがあった。

5. まとめ ～古道と歴史的な資源の活用について～

金沢の古道を活用するために区役所ではいろいろな活動が行われている。街を歩きながら区をガイドするシティガイドを養成し、金沢区の歴史的遺産を伝えて行くシティガイド養成講座や区内の歴史的アムニティ資源の発掘、調査などである。

金沢区には、歴史的資産が古道に沿って分布している。また、かなり開発されたところもあるが、ここには残された自然もある。これからのまちづくりに生かすためには、こうした資産を更に発掘し、多くの区民が共有する情報とする必要がある。



写真. 六国峠入り口付近の古道